

リオ・デ・ジャネイロ日本商工会議所

第二十三代会頭 森谷 和夫



リオ・デ・ジャネイロ日本商工会議所が本年で50周年を迎えられ、誠に御同慶に存じます。

幾多の時代の変遷の中、25周年以降四半世紀の長きに渡って、日伯の経済活動に深く携わられた商工会議所の活動の記録を留めるべく、50周年記念誌発行をなされたことは、誠に意義のあることで、関係なされた諸氏のご尽力に感謝申し上げます。

私が会頭をお引き受けしました期間は、つい最近のことであり在任中の商工会議所の活動は会員の皆様にとりましても、まだ身近な事柄と思いますが、本記念誌の「記録を留める」と言う趣旨に添いまして、在任中に取り組んだ代表的な事柄などを述べさせて戴きます。

当時は、会員企業数の減少傾向にあり、商工会議所の財務基盤の安定化と収支規模にあった(いわゆる身の丈にあった)活動に変えるべく色々な取り組みがなされました。とりわけ、会費の値上げをせずに、どれだけがんばれるかと理事をはじめ会員の皆さんと真剣に議論し、私の任期中は会費の値上げをせずにすんだと記憶しております。反面、余剰金が予定額を超え、(一般企業なら喜ぶべきことでしたが)商工会議所の性格を鑑みて適正な事業計画を行うよう、会計監査役から再三ご指摘を受けました。

また、これまで会員のご協力により運営されていたホームページをIT専門会社とサポート契約することにより、更に充実させ、商工会議所と会員の情報交換の場とするとともに、ホームページの特性である情報交流機能を利用して、世界中のあらゆる人たちがアクセスできる情報環境を整えたことも特筆すべき出来事でした。時々、日本からリオやブラジルに関する質問が掲示板で見られますが、この機能を充実されたら重要な情報源として、さらに利用されるのではないかと思います。私も日本からこのホームページにアクセスして、理事会の模様や会員情報などに触れることで商工会議所の活動を知り、ブラジルを身近に感じております。

商工会議所が教育委員会を通じてリオ・デ・ジャネイロ日本人学校の運営に参画した事も思い出されます。会員企業の減少と相まって、就学児童の減少が大きな問題となっており、一時期には300名を超える学童を収容した立派な校舎の維持管理に係る者の皆さんがご苦労されており、手持ち資金でいつまで頑張れるのか、また、安全管理の面からも別な場所を求めべきか等々、教育委員の皆さんと検討して、公的資金に支援を戴き、安全対策を行うなどして、当面、現在の校舎での授業を継続することにしたことが思い出されます。この様な状況でしたが、リオ・デ・ジャネイロ日本人学校が創立30周年を迎えました。少人数になったとは言

え、校長先生や教諭の皆様を中心として、父兄会、在校生が協力して、記念式典や記念誌の発行など記念の行事がなされました。私は、最初のリオでの勤務中に日本人学校創立20周年の記念行事を経験していましたが、この時と比較しても遜色なく一連の行事が執り行われ、関係された皆様のご努力に対し祝辞の中でお礼申し上げたことが思い出されます。

取り留めなく、思い出すまま在任中の出来事を書かせていただきましたが、ご支援、ご指導を戴き何とか任期を務めさせて戴きましたことを改めて御礼申し上げます。

さて、日本に戻りましても、何かとブラジルのことが気になりますが、残念ながら治安の問題などマイナス面での報道が多く、本当のブラジルが理解されるような記事が少ないと感じております。先日のルーラ大統領の訪日でも、国連安保理改革とともに常任理事国入りを目指す立場から、関係を一層強固にしたい考えから、輸入拡大による経済関係の強化をはかると言う掛け声とは裏腹に、「エタノール」問題が若干進展したかに見えるだけで、極めて低調なトーンで終わった様に感じました。しかし、ブラジル市場が有利であれば、トヨタ自動車やホンダがブラジルへの投資を強化するなど、今の日本の企業が「はじめにビジネスありき」の考えで対伯投資も考えていることを見れば、ビジネスチャンスがブラジルにあれば、さらに日本企業が参入する事もあると見られております。ブラジルに関わった一人として、日本とブラジルの間のビジネスチャンスの拡大を願うとともに、リオ・デ・ジャネイロ日本商工会議所ならびに会員の皆様のご活躍と今後の発展をお祈りしまして50周年記念のご挨拶といたします。